

「日の出町の最終処分場問題」を戦った女性たちは今…

ごみ・環境ビジョン 21 運営委員 江川美穂子

ある日、フェイスブックで目にした「たまエコニュース」（東京たま資源循環組合発行）の広告。オオムラサキ観察会のお知らせでした。コメント欄が設けられていて、投稿があり、何気なく読んでびっくり！そこにはこんなことが書かれていたのです。

『そういえば四半世紀前、家庭も何もほっぽり出して大騒ぎしていた女性たち、精神的におかしい連中がいましたが、今頃何しているんでしょうかね』（編集注：日の出町のごみ最終処分場建設の反対運動を指している）

く〜!! ブチ切れそうになるのをようやく静め、深呼吸してコメント主の西東京市の加藤さんにごお答えしました。「はい、いまもみんな多摩地域のあちこちでごみの活動を続けていますよ。当時があったからこそ、多摩地域はごみの少ない先進地域になりましたよね」と。ところが、この後のやり取りはすぐに削除されてしまったのだから驚きです。

思えば、ごみ問題に首を突っ込んで31年。当時まだ30代半ば。地元多摩市のごみの市民グループで活動しだしてすぐに、西多摩郡日の出町につくられた最終処分場問題に直面することになりました。

処分場建設に反対する日の出町の女性たちと知り合い、共感し、毎週のように集会や予定地の見学会などで日の出町に通ったものです。そこに住んでいたらきっと私も同じことをしたでしょう。同年代の彼女たちと行動を共にし、自分のごみがそこに運ばれている、ということ直視しなくては、と思いました。

それは一方で、とても苦しい日々でした。日の出町から地元の多摩市に帰ってくると、この現実を知っている人はほとんどいない。孤独でした。当時参加していた市内のグループ「ごみを考える会」でも、「(処分場問題は)立場が違うからやらないほうがいい」という人もいて、広く事実を伝えることさえ困難に思えました。

しかし、当時の多摩市長が谷戸沢処分場の管理者だったことから真剣に受け止めてくれた人も出てきて、しだいに仲間が増えていき、多摩地域の他市の住民へと共感が広がって、集まろうということになりました。

みんなで映画「水からの速達」の上映活動や「冬イチゴは見ていた」巡回写真展、さまざまなイベントや「日の出の森新聞」の発行などを精力的に行い、日の出の森トラスト運動にも参加しました。



日の出処分場問題の学習会や映画会、日の出の森トラストでの音楽会のチラシ。懐かしい!と思われる方も多いのでは?

そして、とうとう95年の夏は青島都知事に「谷戸沢処分場の汚水漏れに関する情報公開」を求め、1か月間都庁のロビーに座り込んだのです。

しかし事は肅々と進み、第二処分場（現在の二ツ塚処分場）が一部開場する日、1998年1月の寒い日でしたが、私は生後2か月の次男を抱いて現地に行ったものの、ゲート前の抗議活動を見守るしかなく、離れた場所から市民と職員が対立している様子を見ていましたが、最初のごみは正面ゲートからではなく、姑息にも裏口から搬入されてしまったのです。

それからすぐの1998年5月30日(ごみゼロの日)に、ごみ・環境ビジョン21を仲間と立ち上げました。

西東京市の加藤さん、ご質問は「あの時に一緒に行動していた女性たちが、その後どうしているか」でした。よくぞ聞いてくださいました。

当時、反対派と呼ばれた私たちですが、最初に書いたように、みんな元気にさまざまに活躍しています。なんと、日の出町民の田村みさ子さんは、日の出町議を経てこの春、みごと日の出町長に! 永戸(中西)千恵さんも町議会議員になりました。写真は田村町長(左)と永戸市議。なんてすてきな笑顔でしょう。

ごみ・環境ビジョン21立ち上げにも多くの「反対派市民」の力が集結され、設立からすでに24年目、コツコツとしぶとく活動を続けています。

「やる時はやらなきゃ!」改めて当時を振り返り、その思いを強くした出来事でした。

